

平成 23 年度活動報告の詳細 * 蚊対策

1 従来の蚊の状況

長年にわたり当自治会地区内は蚊が他地域に比べて非常に多く、夏は庭に出ることができない、戸外での立ち話もできない、また公園では子どもたちが遊んだり、ラジオ体操もできないなど蚊の被害に苦しんでいました。

2 そのような状況に対して、平成 23 年 3 月の自治会総会において何らかの蚊駆除対策をしていきたいとの提起を受け、自治会として対策に取り組むこととしました。

3 まず、蚊に対して住んでいる方がどのような認識を持っているか、第 1 回アンケートを実施したところ、蚊が多く何らかの対策が必要であるとの意見が多数寄せられました。

4 あわせて区福祉保健センターに出向き（4 月）相談したところ、蚊は発生源である水溜りを無くすことが肝心であり、発生防止のため各戸の庭の植木鉢の受け皿、植木用の汲み置き水、古タイヤ内の水、空き缶・容器類などに水溜りをつくらないように指導を受けました。その旨の広報チラシを回覧し、皆さんの協力をお願いしました。

5 5 月の役員会（班長会）において蚊対策部（主担当 10 班小田）を設置しました。その後、土木事務所に相談・要望したところ、自治会区域内の道路雨水マス汚泥・土砂・枯葉を除去・清掃を実施することができました（6 月）。同時に自宅前の雨水マスに 1 週間に 1~2 回散水しボウフラを流出させるようにとの教示があり、自治会としては当地区の各戸敷地内の雨水マスのフタに穴が開いているため発生源となっていると考え、両方とも注水してもらうように広報チラシを全戸配布しました。

6 その結果、夏の前半（8 月中旬頃まで）は蚊の出没が相当少なくなり、被害が少なくなったとの声が寄せられました。ところが後半には再び多くなり困っているとの話を聞くようになりました。

7 そのため再度、区福祉保健センターに相談し、現地を見てもらいました（9 月）。その結果、①敷地内の穴のある雨水マスは発生源になる、②従来アカイエカとヒトスジシマカ（これは現認してもらった）が発生源を住み分けて産卵していたのではないかとされるが、土木事務所の清掃によりアカイエカが減少し、夏後半は発生源を異にするヒトスジシマカが多く出てきたのではないかとのことでした。

8 さらに今夏の蚊の状況がどうだったか第 2 回アンケートをお願いしたところ、従来と変わらないとの意見もありましたが、少なくなったとの意見が過半数寄せられました。しかし上記 6 のように夏後半は多くなったとの意見が多く、あわせて引き続き対処してほしいとの要望が大半をしめました。

9 第 2 回アンケートを受けて、具体的な蚊対策を実施するため、詳しい説明を付して第 3 回アンケートを行いました。ABCDE の 5 案を提案したところ、全戸数 320、回答数 228、D 案（業者による制御剤投入）101、C 案（自治会の手で投入）91、E 案（各戸に任せる）37、B 案（穴をふさぐ）1、A 案（業者によるマス清掃）0、との結果となりました。（詳しいアンケート結果は別紙参照）

これは①C・D 案ともに「昆虫成長制御剤」の使用により発生を抑制することで共通しており、②自治会自らの労力はなるべく避けたい、③ある程度の自治会費用を費やすことはやむをえない、と集約できると考えます。

以上のとおり報告案ならびに蚊対策活動計画(案)が蚊対策部から役員会へ提案されました。